

ホクコービルダーリディアE V箱粒剤

■種類名：フルピリミン・プロベナゾール・ペンフルフェン粒剤
 ■有効成分：フルピリミン-----2.0%
 プロベナゾール-----10.0%
 ペンフルフェン-----2.0%
 ■殺虫剤分類：4F
 殺菌剤分類：P2,7

■登録番号：第24747号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2023.02.22
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：3年
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- 水稻のいもち病、紋枯病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシを長期間にわたり同時防除できる。
- 稲の育苗箱施用及び側条施用が可能。
- リディアは新規作用機作を有しており、既存の各種殺虫剤に感受性が低下した害虫種にも有効である。

【適用内容】(2026年2月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)	1回
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ 穂枯れ (ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 イネドロオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イネツトムシ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当り 50g	移植7日前～移植当日 移植3日前～移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)		

【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
 - ◆ 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - ◆ 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
 - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して葉害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
 - ◆ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは葉害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
 - ◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は葉害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
 - ◆ 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
 - ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - ◆ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。

- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。